

## 清水港「木材輸入」に歴史あり — 清水港の木材輸入の歴史を探る —

### 第一次世界大戦がもたらした“幸運”

清水港の木材輸入の黎明 — それは第一次世界大戦が清水の産業界にもたらした“幸運”に他ならない。戦後の金融の悪化、労賃の上昇等により国内材が低迷する中、材木業界は輸移入材に頼る構図となった。鈴与が三保に私設の水面貯木場をつくったのが大正4年。8年には清水港の木材輸移入額が前年の3倍に急進する。このころ、大型船舶は港に横づけできないため、運ばれてきた木材はまず船から海へクレーンにより投下され、それを舢舨に乗った材木職人が棒を操って集め、筏に組んで陸地まで運搬していた。清水波止場付近には天竜や島田方面から木材商や製材業者が移転してきたほか、海岸に引き上げられた木材は、貨車に積み込まれ、富士方面の製紙工場をはじめ国内各地に送られていった。

### テルファーの登場

昭和3年、臨港線の清水港駅に木材積込機械の「テルファー」が設置された。

テルファーとは「荷役用ホイストクレーン」のひとつで、テルファー上部にある操縦室の指令で海上あるいは船上の荷物を吊り上げ、レールにそって移動し貨車に下ろしていく。名古屋、神戸に続き全国で三番目に設置されたが、現存するのは清水港のみである。

従来、沖合から筏に組んで運んできた木材はコンベヤーで貨車に積み込まれたが、その能率はせいぜい1日1車両。新設のテルファーは、わずか48分間で30トン積み貨車に木材を積み込んでしまう。この新しい装置が、港の機能に革命をもたらしたのは言うまでもない。



国の登録有形文化財にも指定されているテルファー

### 木材輸入港として新たな局面

大正半ば以来、北洋材の輸入が増え、その結果製材業が盛んになり、そこに関東大震災後の木材需要増が重なり、清水港への内外からの輸移入高は、横浜や大阪などの先進木材港に肩を並べるまでになっていた。貯木場が圧倒的に不足する中、昭和2年、待望の県営貯木場が折戸に完成。貯木能力は大幅に増大した。その後、昭和5年の不況の深刻な影響により、北洋材や北米からの輸入材が落ち込むと、それを補完する形で、インドネシアからのラワン材の輸入が始まった。その後は、南洋材の輸入が次第に割合を高め、主要な位置を占めるようになった。



折戸貯木場での水面貯木の様子

### 水面貯木から陸上貯木、そしてコンテナ化が進む

こうして折戸湾の水面貯木場は清水港の木材輸入の象徴的な風景を作り出してきたが、近年、環境破壊に伴う原木の輸出禁止、木材関連事業の低迷、製材や半製品に加工した形での輸入の増加などにより、水面貯木は減り、ついに平成17年12月折戸湾の水面貯木は幕を閉じた。変わって現在では、袖師埠頭での陸上貯木、さらにはコンテナ化が進んでいる。平成元年に137万トンあった原木の取扱量は、17年には10万トン程度になり、さらに水面貯木終了後の平成18年には1万3千トンとなっている。



# 新規航路 4 月スタート【北米航路】

4 月から北米航路の新しいサービスがスタートします。

- 航路名：北米航路
- 寄港地：光陽（韓）→釜山（韓）→神戸→清水→名古屋→横浜→ロサンゼルス（米）→オークランド（米）→ダッチハーバー（アラスカ）→横浜→神戸→光陽（韓）
- 運航船社：MAERSK LINE
- 代理店：清水マースクエージェンシー(株) 054-351-3311
- 投入船舶：5 隻（59,840 総トン、全長 292m、積載能力 3,800TEU）

※清水港への初寄港は 4 月 16 日（水）の予定。二輪自動車等の輸出が主な取扱いとなる見込みです。

清水港の定期コンテナ航路（航路開設後）

航路名	航路数・便数	航路名	航路数・便数
北米・欧州	1 航路、1 便	東南アジア	7 航路、7 便
北米	2 航路、2.5 便	東南・西アジア	1 航路、1 便
欧州	1 航路、1 便	韓国・中国・台湾	10 航路、10 便
欧州・北米	1 航路、1 便	合計	23 航路、23.5 便

## 平成 19 年（2007 年）コンテナ取扱量 56 万 7 千 TEU

平成 19 年の清水港におけるコンテナ取扱量は 56 万 7 千 TEU となりました。米国におけるサブプライム問題の影響で北米向けの自動車部品、二輪自動車が増減しましたが、欧州向けの電気機械や輸送機械が増加し、外貨は過去最高を記録しました。一方、内貨が減少したため、全体としてほぼ前年並みとなりました。

## 巨大なケーソンが動く！

3 月 16、17 日の 2 日間をかけて、新興津埠頭 1 号岸壁の延伸のため、巨大なケーソン（長さ 27.2m×幅 13.0m×高さ 18.5m、重量 2,461t）2 函の据付作業が行われました。“巨大な”ケーソンを動かすのは 13,000t もの“巨大な”吊起重機船！

袖師第一埠頭にて製作されたケーソンは、起重機船によって新興津岸壁まで吊運搬されました。その後、ケーソンに注水作業が行われ、約 1 時間をかけてゆっくりと沈められました。

「ケーソン」はフランス語で大きな箱という意味なんだって！コンクリートで造られて、岸壁や防波堤に使われてるよ。



## ミニコラム～海事功労～

フランス海事功労章を日本人が？！

昭和 39 年、日仏貿易に尽くしたとして、フランス政府から海事功労章を受けたのは、当時フランス郵船代理店であった天野回漕店の掛井金徳さん。掛井さんは、無線など海上との連絡手段が完全でなかった当時、同郵船船舶が清水港に入港するたびに小舟をこいで出迎えたり、緊急入港に際して緑茶などの集荷のため荷主の間を駆け回るなど三十余年間、日仏の貿易や海運業界の発展に努力しました。伝達式にはフランス政府を代表してクロード領事、ギョー仏郵船日本代表、稲名市長（清水市長）ら約 100 人が出席し、清水市役所で行われました。なお、日本人でこの功労章が贈られたのは掛井さんが初めてであったそうです。

※日本での海事功労表彰は毎年「海の日」式典にて行われています（今年は 7 月 23 日）。今年は式典会場にこのフランス海事功労賞を展示する予定。



☆みなさまからのご意見やお問い合わせはこちらまで☆  
〒424-0922 静岡市清水区日の出町 9-25 清水港管理局 企画振興課  
TEL054-353-2203 FAX054-354-0380 e-mail : port@mail.wbs.ne.jp

